

事務事業評価シート(総括表)

事務事業	37	少人数学習指導の推進					
章	2	ともに学ぶ、文化とふれあいのあるまち					
大項目	01	生涯学習、スポーツの推進					
施策	01	学習・教育環境の充実					
事業内容							
目的	児童・生徒の基礎学力の定着と個に応じた指導を充実するため、学習集団を弾力的に編成し指導の充実を図ります。						
対象・手段	都の費用負担（都費）によるTT（チーム・ティーチング：1単位時間の授業を複数の教員で指導するもの）及び少人数授業のための教員加配されていない学校等に区の費用負担（区費）で講師を配置し、学習指導を充実します。						
成果（事業が意図する成果）							
個に応じた指導を行うことにより、児童・生徒の基礎学力の定着を確かなものにします。							
事業成果指標							
指標名		定義			目標水準		
小学校におけるチーム・ティーチングあるいは少人数学習指導の配置数		全小学校のうちチーム・ティーチングあるいは少人数学習指導の配置数			(毎) 年度に (全校) の水準達成		
中学校におけるチーム・ティーチングあるいは少人数学習指導の配置数		全中学校のうちチーム・ティーチングあるいは少人数学習指導の配置数			(毎) 年度に (全校) の水準達成		
					() 年度に () の水準達成		
成果の達成状況							
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
事業 成果 指標	目標値 1	校	30.00	30.00	30.00	29.00	17年度統廃合により2校減 になっています。 19年度統廃合により1校減 になっています。
	実績 1	校	28.00	27.00	27.00	26.00	
	= /	%	93.33	90.00	90.00	89.66	
	目標値 2	校	13.00	11.00	11.00	11.00	
	実績 2	校	13.00	11.00	11.00	11.00	
	= /	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
	目標値 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成18年度	指導方法改善のための教員配置 小学校 27人 27校 中学校 23人 11校 区費講師 小学校 6人3校 中学校 7人4校						
平成19年度	指導方法改善のための教員配置 小学校 26人、26校 中学校 23人 11校 区費講師 小学校 3人3校 中・特別支援学校 8人7校						

部名称		教育委員会事務局		課名称		教育指導課	
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	12,684	22,680	30,781	31,971	
	人件費	千円	167	1,251	1,242	1,239	
	事務費	千円	0	0	0	0	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	12,851	23,931	32,023	33,210	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	12,851	23,931	32,023	33,210	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	167	23,931	32,023	33,210	
	特定財源		12,684	0	0	0	
	一般財源投入率 /	%	1.30	100.00	100.00	100.00	
職員	常勤職員	人	0.02	0.15	0.15	0.15	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
事業に関する検討課題							
<p>児童・生徒の一人一人の個性や可能性を伸ばし、基礎的・基本的学習内容の定着を図る観点から、引き続き習熟の程度に応じた指導を含む少人数学習集団による指導や複数の教員によるチーム・ティーチング指導が必要であり、より効果的な区費講師の活用による少人数指導体制を整えていく必要があります。</p>							
評価基準に基づく評価と理由	達成度	3	少人数学習集団や複数の教員による指導による個に応じたきめ細かな学習指導を行うことができました。				
	実施の成果	3	児童・生徒の基礎的・基本的学習内容の定着と、個に応じたきめ細かな指導を充実しています。				
	効率性	2	週20時間の配置により、効果的な指導を実施できています。指導方法についての打合せを20時間に含んでいる学校もあり、効率的に進める必要があります。				
	行政の関与	2	都においても、国の第7次義務教育諸学校教職員定数改善計画に基づき、少人数指導を行う学校の支援策として加配していますが、区内全ての学校に措置されている状況ではないため、一定の区の関与は妥当です。				
	妥当性	3	目標設定は、確かな学力を定着させる点において妥当です。児童・生徒の基礎的・基本的学習内容の定着と個に応じた指導を充実するために、習熟の程度に応じた指導を含む学習集団の弾力的編成による指導は有効でした。				
	施策寄与度	3	この3年間で、教員・区費講師による指導、大学生による学習指導補助、小学校での講師の専門性を活かした教科の指導計画、教科及び学年に応じた少人数学習指導など、個に応じたきめ細やかな指導を実施し、学習環境の充実に寄与しました。				
総合評価	<p>平成19年度の評価をBとした理由は、小・中学校49名の加配教員を配置し、区費講師を12名配置し、様々な指導形態のうち有効なものを選択し実施することができたからです。</p> <p>また、過去3年間の実績では、Bと評価します。児童・生徒に基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けさせるために、習熟の程度に応じた指導を行うとともに、少人数学習集団や複数の教員による指導によって個に応じたきめ細かな学習指導を行うことができたからです。</p>						B
							過年度評価
改革方針							18年度 B 17年度 B 16年度 B 15年度
	<p>この事業は、学習指導要領改訂に伴う新教育課程の実施により、基礎的・基本的学習内容の定着と思考力・判断力・表現力の育成が重視されることから、よりきめ細やかな指導が大切となってきます。このことから、今後より一層、都費加配の不足分を区費講師で補ってんしていく必要があります。今後の国・都の教職員配置計画の動向を注視しつつ、多様な指導体制・手法に取り組んでいきます。</p> <p>なお、この事業は、第一次実行計画「14確かな学力の育成」に統合し取り組んでいきます。</p>						5
						方向性	
						統合	